

松風平和

令和4年度

那覇市立松島中学校

学校便り [No. 14]

令和4年6月22日(水)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「平和講演会を実施！慰霊の日を前に平和について考えました。」

6月23日は沖縄県にとって忘れてはならない「慰霊の日」です。沖縄戦が終結した日とされていますが、残念ながらその後も悲惨な戦闘は続き、犠牲者も多く出ました。各家庭でも平和の礎や平和祈念公園を訪れたり、家で黙祷を捧げたりなど、改めて平和について考える日にしてほしいと切に願います。

学校においても、前日の22日(水)の1時間目に、平和祈念資料館友の会から講師として、上原美智子さんをお招きし、沖縄戦当時の生活の様子、避難した壕での体験、平和の大切さなどについてお話をいただきました。上原さんは昭和10年に糸満市大度でお生まれになり、小学校3年生の時に沖縄戦を体験されました。米軍が沖縄に上陸する前の避難訓練の様子、昭和20年3月23日の米軍による攻撃後に避難した近くの壕「アマンソウガマ」での悲惨な体験、その後の北部(山原)の恩納村への疎開、さらに捕虜となつての収容所での生活の様子を分かりやすい言葉でお話いただきました。慰霊の日の前日で多くのことを思い出されたのか、涙ぐむ場面もありましたが、最後にはこのような戦争を二度と起こしてはいけないという力強いメッセージもありました。

全校生徒は各学級で、学級代表の生徒は多目的に集まり、直接お話を伺いました。最後に生徒を代表して、**3年の江洲彩希奈さん**が、「多くの生命を奪ってしまった戦争の話がされることは、上原先生にとって苦しくて辛いことだと思います。上原先生のお話を忘れることなく、私達は平和とは何か、どんな行動が平和につながっていくのかを改めて考えていきたいと思います。」とお礼の言葉を述べてくれました。

上原さんは、島尻地区の中学校や糸満高校で教員をされていたこともあり、学校で児童生徒の皆さんにお話しをするのは、逆に元気をもらいます、と話されていました。慰霊の日を前に、先週は神奈川県厚木市の学校での講演も終えて戻ってこられ、本校の講話後も那覇市内の小学校でも講話があるとのことでした。お忙しい中、御講話いただき感謝の気持ちで一杯です。

SDGs(「持続可能な開発目標」)の一つに『16 平和と公正をすべての人に』があります。これは、すべての人が法や制度で守られ、安心して暮らせる平和な社会をつくることを目指しています。現在、紛争の影響を受けている国や地域で暮らす子どもたちは約2億4,600万人とされています。持続可能な社会を創るために、常に社会に目を向け、平和について考え行動していきましょう。

